

2023 年度 第 21 期

事業報告

(事業年度：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

2024 年 6 月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

## 〈2023 年度 概要〉

コロナ禍もようやく明け、落ち着いて事業ができる年となった。文化事業は通常通り運営が行われ、人の交流がようやく戻ってきた。

今年度は「地域と仲良くなる」ことに尽力した1年であった。

2022年10月からは浜松市中心市街地紺屋町で始まった「ちまた公民館」は交差点の角にあり小学生の通学路に位置し、近所の人々のなじみの場所であった。10坪に満たない小さな拠点は驚くほどの速さで地域に根付いた。それは担当するスタッフの尽力によるところも大きいがやはり人が往来するところであり、常に開いていることは多くの人を招き入れる原動力となることを示している。しかし万障つくしたがどうしても福祉施設としては許可が下りず（消防法、建築基準法）ここでの活動を断念することとなった。

同じく今年度から始まった「お祭ごっこ～凸凹まつり」ではたけし文化センター連尺町から半径5kmの住民に向けて折込チラシを配布し、手伝いや物品の供与のお願いし、共同作業を通して地域住民と仲良くなることに尽力した。1年目としてはまずまずの滑り出しであった。地域と一緒に作り上げる祭り。中心市街地の街々とつながる本格的な事業が今年度からスタートした。

文科省の委託を受けて行った障害者の生涯学習は、浜松市内の46協働センター（旧公民館）を調査した。その中で分かったことは地域に必ず一つはありコミュニティの中核を担う協働センターに障害者がほとんど関係していない現実であった。制度が充実すればするほど地域から障害者が消えていく。それに付随して少しでも特徴がある人もろとも通えなくなっている現実を改めて突き付けられた。

福祉事業においても大きな変化の年であった。浜松市郊外で行っていたアルス・ノヴァ入野を中心市街地に移転する。そのためにニーズが減少している放課後等デイサービスを今年度いっぱい廃止した。2010年より放課後等でサービスから始まったアルス・ノヴァであるが13年の年月の中で、当時浜松市内で10件にも満たなかった放課後等デイサービスが現在100以上に増加している。障害児のみが集まる場所ではなく、ちまた公民館など多様な子どもが混ざる場を設けることをもう一度考えてみたいと思う。

今最も足りないサービスといえば、重度障害者の暮らしを支える事業である。その中でもヘルパー事業は浜松地域において事業所も少なくヘルパーも不足している。重度障害者のQOLと文化的な生活を支えるうえでヘルパーの存在は必須である。

同じく軽度、中度の精神障害、発達障害者の居場所も圧倒的に不足している。そこを補完する制度が今のところ「地域活動支援センター」しかない。この事業は他の福祉事業に比べて収益が少ないことも広がらない要因となっている。レッツとしてはこうした事業を今後充実させていこうと考えている。

認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ理事長

## (1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業

### ①アルス・ノヴァ（連尺町）（生活介護定員：20名）

#### ■生活介護の利用者数

契約者数は16名（2024年3月31日時点、昨年度16名）、1日の平均利用者数は11.1名／日（昨年度10.6名／日）だった。特別支援学校の職場実習を延べ8名受け入れたほか、利用を検討される方の見学や体験利用にも都度対応している。

#### ■アルス・ノヴァの支援

アルス・ノヴァでは、利用者それぞれの興味関心、こだわり、ルーティーンを尊重して、日々の活動を支援している。例えば、文字を書くことが好きな方に紙とペンを提供したり、太鼓を叩くのが好きな方が太鼓を存分に太鼓を叩けるようにしたり、テレビゲームが好きな方にゲームができる環境を用意したり、外出が好きな方の外出に1日に何度でも付き合ったりしている。利用者本人が希望する活動が、他の利用者を不快・不安にさせることや本人の健康を大きく害すること、経済的な負担が大きい場合は、代替する活動を提案したり、活動場所を分けたりして対応している。

また、本人のやりたいことを尊重しながらも、新しい経験や社会的なつながりができるように工夫している。一つは外出することで、道中で気になる物や場所などと出会い、新しい活動につながっていく。市街地の立地を活かして、活動で使用する文房具などを買いに行ったり、デパートやショッピングセンターでウィンドウショッピングを楽しんだり、コンビニやスーパー、ドラッグストア、ファストフード店で食べ物や飲み物を購入したりしている。外出も本人の興味関心に合わせて提案していて、本が好きな人と本屋に行ったり、音が好きな人とゲームセンターの音楽を聴きに行ったり、おしゃれが好きな人と100円ショップでメイク道具を買ったりしている。

もう一つは人と関わる機会を積極的につくっている。前述の日々の外出先で出会うこともあるが、市街地で開催されるイベントに参加したり、当法人が運営しているフリースペース「ちまた公民館」に遊びに行ったりして、外部の人との関わりをつくっている。また、一般の人にアルス・ノヴァに滞在してもらう体験ツアー「タイムトラベル100時間ツアー」を毎月開催したり、小中学校、高校、大学、児童会に授業や交流活動として遊びにいたりして多くの人と交流できるようにしている。

#### ■利用者の生活支援

家庭環境や本人の気持ちの変化で、家族との同居生活が難しくなってきた利用者に対して、家族や相談支援員、ヘルパー事業所、短期入所事業所と連携して支援した。



## **②アルス・ノヴァ入野(入野町)**

### **1・生活介護(定員 10 名)**

実利用者数 10 名、毎日平均 7～8 名が通所しており(2024 年 3 月 31 日時点)、1 名の利用者が他事業所(グループホーム)への移籍に伴って、送迎が困難なことから、契約を終了した。

#### **■健康**

利用者の年齢が上がるにつれて健康面での懸念が増えてきたため、日中での生活習慣の見直しや、食事や運動などに関するご家庭への提案など、様々な取り組みを行った。

アルス・ノヴァならではの試みとして、利用者のこだわりや好みに合わせた運動を促進している。利用者の行きたい所を目指す散歩や、聴きたい音楽に合わせたオリジナルダンスなど、それぞれが楽しめる形式を取り入れることで、継続して運動を行えることを目指した。

また、ご家庭との連携に関しても注力している。定期的なバイタルチェックや体重測定は継続して実施しており、その結果や気になる点があれば適切に記録に残し、利用者のご家族に伝達している。定期的な情報共有や相談の機会を設けることで、利用者のニーズや変化に迅速に対応できるよう努めた。さらに、必要に応じて医療機関との連携を促し、利用者の健康状態やケアに関する情報を共有した。

#### **■アルス・ノヴァ入野の支援**

利用者それぞれのこだわり、ルーティーンを尊重して日々の活動を支援している。

毎日、何か一つ買い物をしたい利用者さんとの「レモン(100円ショップ)チャレンジ」や、毎週水曜日に行われる(ほぼ)全員でいく遠方ドライブ、甘いもの好きの利用者さんのための月に一度の「ドキドキおやつ作り」、暑い夏の水浴び・プール活動など、様々な活動が見られた。

これからも本人の特性や要望などを考慮しながら、利用者の可能性を狭めないよう柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。

#### **■屋外活動、他者との繋がり**

新しい体験や興味、才能を引き出したり、発展を見据えての活動を心がけている。また、そういった新鮮な体験が、利用者の要望に繋がり、継続した活動になることも多い。

昨年から一部の講座が「ちまた公民館」に開催場所を移した為、利用者と共にちまた公民館を訪れ、お客さんとの交流を図っている。

また、街中で開催された「凸凹まつり」や「出張ちまた公民館」、小学校に出向く「みにみにアルス・ノヴァ」などの施設外イベントには、距離・時間的な制限がありながらも積極的に参加している。

イベントだけでなく、近所の100円ショップやコンビニ、スタッフの知り合いの店などと一緒に赴き、店員さんと交流することで顔見知りが増え、店員さんの方から声をかけてもらったり、ちょっとした雑談を楽しむなど、地域コミュニティの輪を広げている。

入野と連尺を行き来する方もおり、連尺での多種多様なコミュニケーションの中で、物事への対応（パニックになりづらくなるなど）が大きく変化した利用者もいた。

今後も本人の興味、課題などを共有し、これまでの過ごし方を発展させた活動を中心に、利用者と共に各職員が果敢にこれからの過ごし方を模索していく。



## 2・就労継続支援 B 型(定員 10 名)

### ■就労継続支援 B 型の利用者数

実利用者数 8 名、1 日平均 2.8 名が利用している (2024 年 3 月 31 日時点)。2023 年度内では、1 名の利用者が他の作業所に移籍をし、別の 1 名が通所ができない体調が続いているため契約を終了をした。

### ■2023 年度の状況

就労継続支援 B 型 (以下、就労 B) は、引きこもり・長期入院・作業所利用でのつまずきなどを経験した様々な方が、簡単な作業とともに表現活動・居場所・交流の場として利用している。また、利用者の方々それぞれにあった支援・環境づくりを行っている。

2023 年度は、5 月上旬に新型コロナが「五類感染症」となり、気軽に人との交流やイベントが行えるように少しずつなっていた。それに伴い、利用する際 (施設内の活動、公共交通機関をつかった通所など) の不安やストレスが軽減していった。また、気軽に外出・外部イベントへの参加ができるようになり楽しんだり発散する機会が戻ってきた。

### ■外部への就労

利用者 1 名がより工賃を得られる中心市街地の就労 B 事業所 (飲食店) に移籍をした。

### ■ちまた公民館

2022 年から、レッツが管理・運営する私設私営の公民館「ちまた公民館」での過ごしも加わっている。

2023 年度は「出張ちまた公民館」を実施。公共施設 (クリエート浜松) の中で障害のある人もない人も過ごせるスペースづくりの実験を実施した。就労 B のメンバーは毎回会場づくりや片付けを行った。

### ■表現活動

音楽や詩の創作といった表現活動を行っている。また、ワークショップを行う利用者もいる。今年度は、「第 4 回 匿名希望展 in ハラカド」に応募をした。

恋愛妄想詩人ムラキングが「福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』」で継続して連載をもっている。これまでの『ポロリとひとこと | 妄想恋愛詩人 ムラキング』が 5 回目を迎え終了をし、その次の連載企画として“妄想恋愛詩人・ムラキングと、こここ編集部による読者投稿型連載!”『ムラキングとみんなの詩 (うた)』が 8 月よりスタートした。現在も継続して続いている。

『ポロリとひとこと | 妄想恋愛詩人 ムラキング』

vol.05 2023.4.17

同じ場所に立とうとすることで見えてくるもの —妄想恋愛詩人・ムラキングと詩を書こう

『ムラキングとみんなの詩（うた）』

vol.01 2023.8.9

【作品募集】“生活からうまれた切実な詩”を募集。

vol.02

「生活からうまれた切実な言葉を詩として届けてください」第1回作品発表！

vol.03 2024.2.22

“切実に生きる”方法はみんな違う。生活から生まれた詩、応募作品発表！

■玄関ライブ

たけし文化センター連尺町(以下、たけぶん連尺)を会場に、毎月1回開催しているライブステージ。バンド演奏、小説の朗読、演劇、お笑い、トークなど様々な内容のパフォーマンスが披露される。出演者と観客、障害のある人もない人が混ざり合う会場はライブであり、演劇でもある。また、「失敗OK！未完成OK！なにやってもOK！」をスローガンに、「表現未満、」をざっくばらんに発表できる実験&チャレンジをする場でもある。

2か月おきに新曲を発表したり、小説を書いたり、解散してソロ活動を始めたり、利用者さんそれぞれが積極的に活動している。開催日だけでなく日常にも活動の根がはっており、日々の施設での過ごしの中で毎週練習をしたり、作詞・作曲などを行う姿がある。

他の外部からの出演者のパフォーマンスも刺激になっており、交流もある。

<出演者(アルス・ノヴァメンバー)>

金子あつし/木の葉パレット/ジュピロ北区/タムラムラ/とびうお/むぎ/ムラキング

【開催回数・開催日（全て水曜日）・YouTubeチャンネル視聴回数  
(6/7時点)】

2023年/㉗4/19・367回 ㉘5/17・227回 ㉙7/26・332回

㉚8/23・184回 ㉛9/20・247回 ㉜10/18・242回

㉝11/15・288回 ㉞12/13・192回

2024年/㉟1/10・354回 ㊱2/21 ㊲3/14・499回



YouTubeチャンネル  
「玄関ライブ」



### ③訪問介護事業（アルス・ノヴァ ULTRA）

#### 1・重度訪問介護 | 自立生活の支援

障害のある人の文化的で自立した生活を支えることをミッションとする訪問介護事業所アルス・ノヴァ ULTRA は、2020年9月の開設から4年目を迎えた。

当法人の運営するたけし文化センター連尺町のシェアハウスでは、3名の重度知的障害のある青年たちが公的ケアを利用した自立生活を実践している。アルス・ノヴァ ULTRA は他の訪問介護事業所や訪問医療/看護/薬局とも連携しながら、重度訪問介護の提供を通じて彼らの自立生活の支援に携わっている。日々の食事・買物・入浴・排泄・遊び等の生活支援はもちろんのこと、怪我や病気による急な体調変化に応じた支援ができるように、独自の支援記録ツールやICTを活用したスタッフ間や関係者間での情報共有に取り組んだ。

2023年3月現在、さらにもう3名の青年たちがアルス・ノヴァ ULTRA の重度訪問介護を利用して自立生活の体験を行っている。主に平日夕方から夜の時間帯に親元ではない場所で外出や食事、入浴などの生活体験を積み重ねている。

2023年度 重度訪問介護	
のべ提供時間	12760.5 時間（前年度比約 129%）
のべ利用者数	82 人（前年度比約 152%）



街を遊び場に（家電量販店は心惹かれる音があふれる）



週末は顔なじみの集うたまり場に出かけたり



連休にはベランダで BBQ



夏は川遊びを



ヘルパーは個人のアシスタントとして生活全般に必要な介助をする



自身の作品が入選した展示を見にヘルパーと東北旅行

## 2・行動援護

行動障害のある人の外出支援を行う行動援護には、2023年3月現在2名の方が利用契約をしている。その内1名の方が定期的に利用を継続しており、市街地での外出支援を行っている。

また2023年度は相談支援事業所等から、通所先や学校に通うことが難しい状況になった人の社会参加のきっかけとして行動援護や移動支援（地域生活支援事業）を利用したい旨の問い合わせが複数件あった。アルス・ノヴァ ULTRA ではこういった問い合わせに対してまだ十分に答えられる体制ではないが、地域の課題として把握して、今後も従事者の育成やマッチングに取り組んでいきたい。

2023 年度 行動援護	
のべ提供時間	24 時間（前年度比約 17%）
のべ利用者数	8 人（前年度比約 73%）



新川モールでコーヒープレイク



市街地の床屋で散髪に出かける

### 3・スタッフの新規雇用と育成

2023年度、アルス・ノヴァ ULTRA は、新たに1名の常勤ヘルパーと4名の登録ヘルパーを雇用した。2024年3月現在、6名の常勤ヘルパー、16名の登録ヘルパーが活躍している。登録ヘルパーはそれぞれに自身の本業である写真家・園芸家・音楽家・学生等と兼業してヘルパーとして障害のある人の生活支援に携わっている。

知的障害のある人の自立生活においては、複数の介助者同士がバトンをつなぐように当事者の生活を支援することが重要である。そのための情報や知識の共有、スタッフ同士の相談や研修、民主的な事業運営のために定期的な ULTRA 会議を実施している。会議で決定したことを迅速に具体化する時間を捻出するために、定例会議を隔週で行っている。また、限られた会議時間を有益に活用するために、会議の種類を「事務運営」と「しえんかいぎ」と区別して交互に実施することとした。

また、緊急時対応などの重要な情報をよりスタッフたちが活用しやすいように、資料「通称・だいじノート」の作成や支援手順の更新や整理に取り組んだ。

#### (2) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく一般相談支援事業

今年度事業実施なし

#### (3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業

今年度事業実施なし

#### (4) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業（移動支援）

アルス・ノヴァ ULTRA では移動支援の提供を通じて、障害のある人が休日等に自身の行きたい場所に行き、色んな人と出会うための支援を行っている。

外出の希望があっても、サービスのことを知らなかったり、利用した経験がないためにイメージが持てなかったりするといった潜在的なニーズがあるため、こちらから積極的にサービスの説明や利用の提案をしていく必要がある。こういった課題意識から、2023年度はアルス・ノヴァの生活介護や放課後等デイサービスを利用している方でこれまで移動支援を利用した外出を経験したことのない人を対象にして、日頃の生活や関わり方の延長として外出支援を提案して実施した。本人の好きなこと、日頃大切にしていることを出発点にして、レインボープライドへの参加、車のディーラーめぐり、電車に乗って念願のラーメンを食べるなど多様な「お出かけ」が生まれた。

なお、昨年度に比べてのべ提供時間およびのべ利用者数は減少しているが、これは 2023 年度に移動支援から重度訪問介護のサービスに移行した方がいたためである。

2023 年度 移動支援（地域生活支援事業）	
のべ提供時間	147.5 時間（前年度比約 44%）
のべ利用者数	34 人（前年度比約 76%）



ラーメン屋を目指して森町へ



はまつレインボープライドのパレードに参加

### （５） 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業（日中一時支援）

#### ■利用状況

2023 年度 月平均利用者数 17.8（9.5）件

2023 年 ※（）は他サービスとの併用無しの利用数

4 月／18（8）名    5 月／18（12）名    6 月／24（10）名    7 月／18（12）名  
 8 月／16（8）名    9 月／16（7）名    10 月／21（10）名    11 月／24（13）名  
 12 月／11（7）名

2024 年

1 月／14（9）名    2 月／16（9）名    3 月／18（10）名

## ■2023 年度の状況

昨年度は、利用が各月 11 (7) ～24 (13) 件の間で推移し、コンスタントに利用があった。利用者は基本的に居場所利用として「たけし文化センター連尺町」に來所するが、生活介護や就労 B 型の利用者と一緒に散歩をしたり、イベントに参加するなど、充実した時間を過ごしてもらっている。

今後に向けて、大きな課題や問題は今のところ思い当たらない。引き続き、それぞれの利用者にとって快適な時間を過ごしてもらえするための場の整備に努めていきたい。

## (6) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業 (地域活動支援センター)

今年度事業実施なし

## (7) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

### ■事業運営の状況

3 名が卒業し (卒業後は 1 名がアルス・ノヴァ生活介護へ)、新たに 3 名が利用を開始した。2023 年度の実利用者数は 9 名となり、毎日平均 2 から 3 名程度が通所した。法改正により浜松市に放課後等デイサービスが不足した影響で、にわかには利用者が増加したが、利用頻度は少ない。一方で次年度には 3 名が卒業を控え、利用者が毎日平均 1～2 名とさらに減少することや、体の小さな小学校低学年と現施設環境を鑑みた安全対策、または施設の枠を飛び出し地域に出て行くという法人としての方針とのすり合わせ等を考えた結果、事業継続が困難として、2023 年度で放課後等デイサービスを終了することとした。

放課後等デイサービスとしては事業を終了したが、今後は文化センター、ちまた公民館や地域活動支援センターを運営する中で、障害の垣根関係なく新たに子どもに関わる事業を発展させていきたい。

### ■活動

街なかに移転したことを生かし、施設内外でのびのびと様々な遊びを行なった。

台車で 2 時間延々街なかを散策したり、みんなで公園に行き思いっきり走り回ったり、ブランコに勤しんだり、色々な地域の協働センターに出かけてみたり。その中で地域の人と思わぬ出会いや関わりなどが生まれたこともあった。

たけし文化センターでは、2 階の音楽スタジオで音楽を自由に楽しんだり、エアロビやクラブミュージックと一緒に踊った。小さなメンバーが増えたこともあり、大人の利用者に遊んでもらったり可愛がられたりと、異世代間交流とも言える風景が見られた。

おやつ時間も街なかという立地も生かし、マクドナルドやサイゼリヤなどにみんなで出かけておやつタイムを楽しんでいる。また、地域のスーパーやファーマーズマーケットなどに出向いて自分たちでおやつを選ぶことを楽しんだ。

ちまた公民館に行って地域の人と交流したり、学校に行って子どもたちと遊んだりと外部の人々とも交流が生まれていた。



## (8) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度事業実施なし

## **(9) 文化センター事業**

### **①「ともにくらす」事業**

昨年度、当団体は最も開発が難しいとされている重度知的障害者の生涯学習について考察した。その結果、重度知的障害者が学びを獲得していくためには、多様な人々が共にいる機会、出会う機会が必要であることが確認された。一方で、言葉を発しない重度知的障害者にとって、何をもって学びと捉えるのか、どういった場が求められているかといった考察は難しく課題となった。また、障害者の生涯学習について社会的な関心が低いことも課題である。

昨年度の成果と課題を踏まえ、本年度は「障害者の生涯学習を考え実践することで、多様な人びとによる双方向の学びあいの場が実現する」をコンセプトに、地域コミュニティ及び地域の社会教育の拠点である協働センター（浜松市は平成 25 年より公民館から協働センターに名称を変更）に焦点を当て、多様な人たちがともに学ぶことができる地域コミュニティづくりの実現に向けた事業を展開した。

#### **1・有識者ヒアリングの実施**

プログラム開始のため、協働センター職員や福祉従事者、社会教育に携わる行政関係者にヒアリング調査を実施した。

- ①野嶋京登（富塚協働センター）2023年5月17日(月)
- ②山口朋章（高台協働センター）2023年8月23日(水)
- ③佐藤拓男（北部協働センター）2023年8月24日(木)
- ④鈴木光昭（浜松市社会福祉協議会）2023年9月11日(月)
- ⑤山下美香（中部協働センター）2023年9月11日(月)
- ⑥須藤京子（浜松市議会議員）2023年9月21日(木)
- ⑦大平智史（曳馬協働センター）2023年9月22日(金)
- ⑧高林伸幸（浜松市東区役所）2023年11月28日(火)
- ⑨椛通安（鹿玉協働センター）2023年11月28日(火)
- ⑩竹中良輔（入野協働センター）2023年12月5日(火)
- ⑪新谷直幸（浜松市市民部長）2023年12月18日(月)
- ⑫深谷真光（浜松市福祉総務課）2023年12月18日(月)
- ⑬雨宮寛（浜松市基幹相談支援センター）2024年1月12日(金)

#### **2・アンケート調査の実施**

協働センターの現状や課題、重度知的障害者の利用状況やサービス利用や支援の状況を把握するため、市内 48 館（2023 年 12 月時点）の協働センターに対してアンケート調査を実施した。

#### **3・協働センターを活用した生涯学習プログラム**

- 富塚協働センター夏祭り

富塚協働センターの夏祭りにて、協働センター内の一室を借りてその中に大量の新聞紙を用意し、ブースへ遊びに来た人たちと一緒に新聞紙を破いたり、紙の山の中に飛び込んで遊ぶイベントを実施した。これは生活介護の利用者が好んで行う「紙やぶり」と呼ばれている行為をベースにしており、障害者と健常者が場を共有して遊ぶことを目的に企画を行った。紙やぶりと併せて、DJブースを用意しDJによる音楽を楽しんだり、DJ体験ができる機会を提供した。

場所：富塚協働センター

日時：2023年7月22日（土）16：00～20：00

出演：米山 誠一（DJ）、Conn Houlihan（DJ）

#### ■出張ちまた公民館@クリエート浜松

「出張ちまた公民館」はクリエート浜松（中部協働センター）の1階ホールを利用し、普段のちまた公民館の活動を地域に開いて行うことで、新たな出会いや活動の広がりを探っていく取り組みを行った。2023年10月から2024年2月の間に計17回実施した。

#### 4・連携協議会の設置と検討

官民合わせた社会教育や医療、教育、障害福祉に携わる方々にご参加頂き連携協議会を設置し、重度障害者を包括した生涯学習の在り方や、プログラム開発、地域が抱える課題等について検討議論を行った。

協議会日程：①2023年7月20日、②2023年10月16日、③2023年2月19日

#### 【連携協議会構成員】

遠藤雄策（浜松市発達医療総合福祉センター副院長）

津田英二（神戸大学教授）

井口啓太郎（国立市公民館社会教育主事）

鈴木恵子（浜松市市民協働センター副センター長）

ロビンス小依（教育コーディネーター）

加藤元一（浜松市市民部創造都市文化振興生涯学習担当課長）

久保田尚宏（浜松市健康福祉部障害保健福祉課長）

松下恵介（浜松市役所市民部市民協働・地域政策課長補佐）

久保田翠（特定非営利法人クリエイティブサポートレッツ理事長）

#### 5・カンファレンスの実施

重度知的障害者を含めた障害者が参加し、一般の人たちとともに学び合う環境を形成するためには何が必要かを検討、発表することを目的にカンファレンスを実施した。

開催日時：2024年2月5日(月)14：00～17：30

会場：クリエート浜松（中部協働センター）

参加者数：160名（内運営事務局関係者30名）

#### プログラム

##### [事例・話題提供]

- ・「ともにいるだけで学びになる」実践事例

久保田翠・ササキユーイチ（クリエイティブサポートレッツ）

- ・地域をつなぐ協働センター

##### 「協働センターとはなにか」

松下恵介（浜松市役所市民部市民協働・地域政策課）

##### 「浜松市内の協働センター実践1」

佐藤拓男（浜松市北部協働センター）

##### 「浜松市内の協働センター実践2」

野嶋京登（浜松市富塚協働センター）

- ・「社会福祉の実践から～福祉を取り巻く仕組みや制度～」

鈴木光昭（浜松市社会福祉協議会浜松地区センター）

##### [キートーク]

##### 「多様な人を包括する公民館」

宮城潤（那覇市若狭公民館）

##### [シンポジウム]

「ともにいるだけで学びになる～これからの協働センターはどうあるべきか、その可能性を考える」

##### 〈登壇者〉

井口啓太郎（国立市公民館）

宮城潤（那覇市若狭公民館）

鈴木光昭（浜松市社会福祉協議会浜松地区センター）

松下恵介（浜松市役所市民部市民協働・地域政策課）

佐藤拓男（浜松市北部協働センター）

野嶋京登（浜松市富塚協働センター）

久保田翠、ササキユーイチ（クリエイティブサポートレッツ）

石山律（司会 | クリエイティブサポートレッツ）

## 5・場づくりに関する実践事例集、WEBページの制作

事業成果の普及発信及び障害者の生涯学習機会確保の啓発のため、当法人がこれまで行ってきた「たけし文化センターBUNSEND0」「共生社会コンファレンス 2023」「かたりヴ

あ」「しえんかいぎ」「ちまた公民館」「みにみにアルス・ノヴァ」などの実践から、外部リサーチャーの分析を通して多様な人たちが共にいる場を作るために役立つ視点や考え方を抽出し、実践事例集としてまとめた。主に社会教育やコミュニティ形成に関わる方々に向けて配布する。また、共生社会コンファレンスの内容は録画を行い、アーカイブ（記録映像）配信することで多くの人々に向けて周知を図っていく。

## ②「表現未満、」プロジェクト

### 1・表現未満、センター（ちまた公民館）の設立

2022年10月に居場所づくりの実験事業として始まった「表現未満、センター」（ちまた公民館）。現在は浜松市中心部紺屋町に10坪の拠点を構え、私設私営の公民館として運営している。この1年半で、近所の小・中学生から、浪人生、はたまた居場所を求めて遠方から来館する人まで、様々な人が交差し出会う場所となった。また浜松国際交流協会 HICE や JICA 浜松デスクとのコラボ事業や地元のアーティストが講師になる「ちまたスクール」を開催するなど、多くの団体と協働できたのが今年度の特徴だ。今後は今ある「ちまた公民館」の土壌を育てながら、地域活動支援センター化を目指して拠点を拡大し、今年度出会った関係や事業を発展させていきたいと考えている。

#### ■ちまた公民館

開館期間：4月～3月（12か月、280日）月～土 13:00～17:30

参加人数：延べ6000人

講座内容：みんなで体操（月4回／35回／講師：竹本真由美）、アートインコミュニティプログラム（7回／講師：ホシノマサハル）、版画講座（月2回／24回／講師：山下淳子）、みどのヴァ（12回／講師：久保田翠）かたりのヴァ（12回／講師：レッツスタッフと関係者）、演劇ワークショップ（2回／レッツスタッフ）、積読読書会（14回）、韓国語講座（12回／レッツスタッフ）、水曜宿題マン（12回）プラモデルをつくる会（12回）、ガチャフェス（3回）、ギャル部（3回）、ラジコン部（2回）、ポエトリアモーメント（4回）、読書会+かたりのヴァ（1回／講師：西川勝）

#### ■縁日イベント（他団体との交流）

『これからちまたパーティー』

会場：クリエート浜松 1階ふれあい広場（静岡県浜松市中央区中区早馬町2-1）

開催日：2024年1月13日[土] 17:00～20:00

共催：公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)、JICA 浜松デスク

参加者：500名

浜松市社会福祉協議会、南区民生委員お餅つきチームのみなさま、河輪町、白脇田んぼアートの会、紺屋町

『世界のダンス体操』

「ペルーの健康ダンスでウノ、ドス、トレス！」

開催日：2023年12月6日[水] 13:30~15:00

講師：ホセ・カルロス・カセダ（介護福祉士）

会場：クリエート浜松 ふれあい広場（静岡県浜松市中央区早馬町2-1）

参加者：50名

「英語を使ってダンス！ラテンリズムで心もからだもエクササイズ」

開催日：2023年12月12日[火] 13:30~15:00

講師：マギダ・アルベス（ダンス・英語講師）

会場：クリエート浜松 ふれあい広場（静岡県浜松市中央区早馬町2-1）

参加者：60名



YouTube「HICE×ちまた公民館コラボ 世界のダンス体操」

■ちまたスクール（アーティストとの講座）

『新春!!ちまたスクール 2024』

会場：ちまた公民館（浜松市中央区紺屋町217-30）

講座①『枝からフォークをつくる』

1月13日[土] 10:00-12:00／宮沢のり子（小枝デザイナー）／小学1年～どなたでも  
（参加者15名）

講座②『はりこでつくる縁起物』

1月27日[土] 10:00-12:00／アドバイザー：遠州天狗屋 坂田吉章（張り子作家）／小学1年～どなたでも（参加20名）

講座③『スマホ&iPhoneで気軽に曲づくり』

2月17日[土] 10:00-12:00／Motomitsu Maehara（DJ、音楽家、絵本作家）／中学1年～どなたでも（参加者10名）

■ちまちまトーク（全15回）

新しいコミュニティを考えることは、大きく風呂敷を広げるのではなく、わたしたちが  
出会ってきていない、近くにいるけども話したことのない「隣人」と、まず、出会うこ  
とから始まるのかもしれない。そんな想いを胸に、今年度は浜松ちまた会議とレッツスタッ

フが、お話を聞いてみたい、知り合ってみたい、繋がりたい、浜松のまちなかに縁がある方に声をかけ、今のまちに対する思いや生活者としての目線をお聞きしながら、トークやちょっとした交流会を開催した。

主催：浜松ちまた会議／共催：認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ／支援：アーツカウンシルしずおか

会場：たけし文化センター連尺町（すべて）

開催回数：15回 参加者総計：154名 関係者総計：15名

ゲスト名（肩書、所属など）・開催日時・参加者数

[1]菅沼映里さん 2023年8月25日（金）17:30-19:30 8名

[2]日下竜太さん（日下農園） 9月8日（金）18:00-20:00 8名

[3]高橋雄太さん（佐鳴台小） 9月15日（金）19:00-21:00 10名

[4]長坂聖子さん（SSW、みらいTALK） 9月22日（金）18:00-20:00 10名

[5]山本雄一郎さん（Green Cog） 9月29日（金）18:00-20:00 10名

〔公開〕facebook：リアクション数15件、シェア4件（9月22日投稿）

Instagram：リアクション数29件（9月22日投稿）

[6]大村智子さん（KIZUKIの食堂） 10月20日（金）18:00-20:00 14名

〔公開〕facebook：リアクション数14件（10月19日投稿）

[7]大端将さん（みかわや | コトバコ） 10月27日（金）18:00-20:00 12名

[8]榎本雅之さん（シネマイーラ） 11月10日（金）18:00-20:00 10名

[9]市原健太さん（水曜文庫） 11月17日（金）18:00-20:00 10名

[10]大隅和子さん（すみたや） 11月24日（金）19:00-21:00 12名

[11]坂本清子さん（タイムトンネル） 12月1日（金）18:00-20:00 8名

[12]村田亜希子さん 12月8日（金）17:30-19:30 10名

〔公開〕facebook：リアクション数16件（12月3日投稿）

Instagram：リアクション数32件（12月3日投稿）

[13]中谷明史さん（山ノ舎） 2024年1月12日（金）17:30-19:30 8名

〔公開〕facebook：リアクション数13件（1月8日投稿）

Instagram：リアクション数20件（1月8日投稿）

[14]大山浩司（ドリームフィールド） 1月19日（金）18:00-20:00 14名

[15]桐田和昭（ダンカレー） 2月21日（水）18:30-20:00 10名

〔公開〕Instagram：リアクション数26件（2月20日投稿）

#### ■アートセンター基本構想作成

今後浜松市中心市街地に、重度障害者を核とした文化創造・生活発信拠点「表現未満、センター」を建設したいと考えている。これは中心市街地に複数拠点をつくることで、障害の

ある人の社会的な認識を変えると同時に、重度知的障害者が文化や暮らしの創造発信拠点となることを表明することで、街の在り方自体を変えていく試みである。

2023年5月～10月 表現未満、センター構想企画書制作

2023年10月浜松市産業部部長にプレゼン

2023年11月浜松市長にと面談

2024年3月 リノベーションスクール（浜松市産業部産業振興課主催）にてプレゼン

## 2・人材育成・ラーニングプログラムの実施

知的障害者の行う「表現未満、」を体感することは、健常者と呼ばれる人たちにとって「学び」になり得るのではないかと。またその逆に、その出会いは知的障害者の「表現未満、」にも何かの影響力を持ち得るのではないかと。そのために「知らない人たちが混ざる」こと、出会い、互いに知り合うこと。福祉を学ぶ上智大学の学生を中心とした学生グループ、福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」、教員のメディア「先生の学校」、株式会社HACKなどの各団体が、各分野でいま必要としている知を獲得するために、知的障害者の「表現未満、」を体感できるタイムトラベル100時間ツアーを題材に、それぞれのやり方で研修・合宿等を行った。

6月27日／先生の学校／先生の学校・オンライン講座（イベント）

8月19、20日／先生の学校／未来の先生フォーラムポスター発表

8月20日／先生の学校／未来の先生フォーラム講演「『ちがい』が学校をやわらかくする ～知的障害者施設のアプローチを学ぼう～」

9月8～10日／学生／大学生バージョン 共生社会って何だろう？ ～五感で学ぶ3日間～

10月24日／先生の学校／学校の先生バージョン 先生の学校 動画取材

11月28日／ビジネスパース／HACK 高林さん・伊達さんタイムトラベル100時間ツアー体験

12月13日／ビジネスパース／HACK 主催ビジネスコミュニティサロン「水曜日のヨル喫茶」でのタイムトラベル100時間ツアーブレスト会議

1月15日／先生の学校／先生の学校 動画公開「障害のある人が「好き」に没頭できる福祉施設「たけし文化センター」。アートの手法で、障害の捉え方の転換に挑む NPO 法人の取り組みとは？（となりの学校見学）」

3月30日／ビジネスパース／HACK 主催ビジネスメンバーツアー

### ■先生の学校バージョン

・オンライン講座（2023年6月27日 久保田翠講演・紹介）

・先生の学校未来の先生フォーラムポスター発表（2023年8月19、20日）

・未来の先生フォーラム講演「ちがい」が学校をやわらかくする～知的障害者施設のアプローチを学ぼう

- ・先生の学校 動画取材（10月24日）
- ・先生の学校 動画公開（1月15日）

「障害のある人の「好き」に没頭できる福祉施設「たけし文化センター」。アートの手法で将棋の捉え方の転換に挑む NPO 法人の取り組みとは？（となりの学校見学）

#### ■学生バージョン

- ・実行委員会の結成とオンライン会議（6月～8月）
- ・事前見学
- ・観光ツアーの実施（9月8日～10日 参加者6名、担当者3名（上智大学2名、京都大学1名）

#### ■ビジネスパーソンバージョン

- ・株式会社 HACK タイムトラベル 100 時間ツアー体験ツアーの実施（11月28日）
- ・HACK 主催ビジネスコミュニティサロン「水曜日のヨル喫茶」「タイムトラベル 100 時間ツアーブレスト会議（12月13日）
- ・HACK・ビジネスメンバーツアー（参加所6名）の実施（3月30日）

#### ■福祉メディアバージョン

- ・福祉メディアここことの企画会議（5回）
- ・次年度実施に向けての準備（コンセプト、実施日検討）

#### ■福祉施設関係者バージョン

- ・福祉関係者顔合わせ（グループホーム責任者、入所施設責任者、就労継続支援＋相談支援事業所責任者、生活介護事業責任者）
- ・企画検討会議3回（10月、12月、2月）
- ・（次年度以降に実施予定 2024年6月～7月）

### 3・派遣事業

#### ■かしたしたけし@学校

「かしたしたけし」は、レッツが2017年度から始めた「表現未満、プロジェクト」の観光事業の一環だ。おもに重度の知的障害者がさまざまな場所に貸し出され、そこで彼らが「いつもの日常」を繰り広げる。この事業は「タイムトラベル 100 時間ツアー」と対となる事業として開発された。「タイムトラベル 100 時間ツアー」は障害のある人の現場（たけし文化センターなど）に一般の人々が訪れ障害のある人と時間を共にし、「かしたしたけし」は一般の人々の現場に出かけていくことで、様々な人々が多様性や寛容性を考える機会を提供し、私たちが当たり前だと思っている固定観念や価値観に波紋を投げかけることを目的とした事業である。

富塚中学校 1回 (6月2日・153名)

佐鳴台小学校 4回 (6月6日・150名、9月5日・150名、10月5日・150名、11月7日・150名)

聖隷クリストファー中学校キャリア学習出張授業 1回 (9月7日・40名)

広沢第3児童会 1回 (8月7日・60名)

たかだい児童会 1回 (8月21日・60名)

聖隷クリストファー大学講義 3回 (12月4日、7月3日、6月6日、看護科100名、福祉科100名)

#### ■かしたしたけし@京都大学

アルス・ノヴァのメンバーとスタッフが1泊2日で京都大学に滞在し、学生や大学教員と学祭真っ盛りの中、行動を共にし、「かたりのヴァ」(語り合いの場、哲学カフェ)を開催した。学生達が接する機会のない重度の障害者と呼ばれるメンバーと交流することで感じる驚きや疑問、障害・健常の差異、差別・偏見、社会に戸惑う胸の内などを拾い上げ、自由に振る舞うアルス・ノヴァのメンバーと一緒に車座になって行う「かたりのヴァ」で共有し、共に思考した。

実施日時：2023年11月23日～24日

参加者：重度知的障害者6名、サポートスタッフ9名

当日参加者：京都大学20名、レッツ15名

その他：映像制作(9分46秒)

振り返り：「かしたしたけし@京都大学」の上映会と振り返りを京都大学で行った

日時：2024年3月4日14:00～17:00

参加者：京都大学関係者7名、レッツ関係者2名

#### 4・リサーチプロジェクト(専門家・研究者との共同開発)

##### ■「表現未満、」と福祉支援計画書様式のリサーチ

毎年様々なアートプロジェクトを行っているレッツだが、活動の核となっているのは、障害福祉施設「アルス・ノヴァ」(生活介護・就労継続支援B型・放課後等デイサービス・ヘルパー事業)である。「障害者支援」の現場であると同時に、どんな表現も取るに足りないものとせず尊重する「表現未満、」の場でもある。いっぽう、障害者総合支援法で必要とされている書類では「より良い結果」に向けた「計画」を作ることが求められる。障害者支援に携わるわたしたちは、どうしたら「表現未満、」の目線を福祉の世界で言語化できるのだろうか。そんな悩みから、今年は「個別支援計画」の扱い方について他の施設に伺ってリサーチするとともに、福祉施設とアートの狭間についてキュレーターの青木彬さんにお話を聞いた。

青木彬さんゲストトーク 12月11日～13日 研究員20名  
たんぽぽの家（奈良） 12月22日 研究員2名  
やまなみ工房（滋賀）1月16日 研究員4名  
にこちゃんの会、工房まる（福岡） 1月19日 研究員2名  
ハーモニー（東京） 1月24日 研究員4名  
studio COOCA（神奈川） 2月13日 研究員6名  
春日台センターセンター（神奈川） 2月13日 研究員6名  
リベルテ、犀の角（長野） 3月1日 研究員2名

## 5・フォーラム・カンファレンスの開催

### ■「表現未満、」を話す、聞く アーダ・コーダ・ソーダ！どうだ？～17人のスタッフとトーク大回転～

レッツのスタッフ17名が一人ひとりホストになり、各スタッフの興味関心を軸に、参加者と少人数で語り合うイベントを開催した。30分のトークセッションを3回行い、参加者には各回で別のスタッフのもとで話を聞いてもらった。5名のゲストを招いて参加者とともにトークに参加してもらい、内容を共有するゲストトークを行ったあと、参加者・ゲスト・スタッフが自由に話すフリーセッションの時間を設けた。講演や報告書とは違う、それぞれのスタッフの語りからレッツの活動を知ってもらい、また参加者からも話を聞けるようにイベントを企画した。

#### [イベント概要]

日時 | 2024年2月23日（金・祝） 11:00～18:00

会場 | たけし文化センター連尺町（静岡県浜松市中央区連尺町314-30）、ちまた公民館（浜松市中央区紺屋町217-30）

定員 | 70名（事前申込・先着順）

主催 | 文化庁、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

文化庁委託事業「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

#### [タイムテーブル]

11:00～ オリエンテーション（10分）

11:30～ スタッフトークセッション①（30分）

12:20～ スタッフトークセッション②（30分）

12:50～ 昼休憩（70分）

14:00～ スタッフトークセッション③（30分）

14:50～ ゲストトーク（60分）

15:50～ フリーセッション（交流会）（130分）

18:00 終了

[ゲスト]

青木彬（インディペンデント・キュレーター、一般社団法人藝と ディレクター）  
アサダワタル（アーティスト、文筆家、近畿大学文芸学部文化デザイン学科 特任講師）  
津口在五（鞆の津ミュージアム キュレーター、生活支援員）  
辻琢磨（合同会社辻琢磨建築企画事務所 代表）  
中田一会（マガジンハウス〈こここ〉 編集長、きてん企画室 代表）  
交流会ゲスト | 前原本光 (DJ)

[17名のレッツスタッフ]

石山律、内田翔太郎、尾張美途、久保田瑛、櫻井喜維智、ササキユーイチ、佐藤啓太、杉田可縫、曾布川祐、高木路子、高林洋臣、竹内聡、塚本千花、夏目はるな、水越雅人、見山陸生、渡邊亮介

[トークテーマ]

なるべく自責・他責せずに自分のこれまでを振り返る／なんだか家族にこだわっている／ぐっときてすぐに忘れる／好きなこととエンパワメント／こだわりとストレングス／ズルさの正体／菊池寛「父帰る」から考える福祉と家族／合意形成を図ることと得ること／あれも福祉、これも福祉 「それって福祉かも？」をブレストしてみる／たけしから結婚祝いをもraitたい／生存戦略としての福祉とまちづくりと銭湯計画／外に出ること／好きな食と生きるための食について／こだわること／OGA 奪還大作戦・決起集会／WLB? Work Life Balance BADASS!!!／超・たけしと生活研究会／生きるって大変だなあ……。／「あなた」を通して「わたし」を見た！／なんとなく一緒に居ると、なんだか色々面白いよっ。／「子どもの居場所」って どうつくる？／レッツっぽさ／仕事、はたらく→何で？何のために？何をしたい？ぜったい？いつまで？／現場で湧き上がる哲学的興味について／声について／生活や表現の大切なことって遠いようで意外と近いところにあるのに届かない問題／レッツとは考え続け、問い直すことを止めない修行とみつけたり!!!／スナックありじごく in アーダ・コーダ・ソーダ! どうだ？／支援と利他～非支配的な支援について考えるケース会議～／超・デザイン～自分に正直なクライアントたち～／気をすませ／気をまぎらわせながら生きていく／凸凹まつりとかクラブアルストかやってみて／生活と演劇／孤独について／なにを食べて生きていますか？／何年やっても慣れないことば「福祉」「支援」「障害」「まちづくり」／夫も知らない、ひとりの音楽／レッツと障害者総合支援法～創造的事務シゴト～／教育界に絶望したくないけど時々絶望／表現と居場所と現場／新人と話す。紙とペンで。／文化とはなんですか？／あなたにとっての非言語的コミュニケーションを教えてください。／アウトサイダーからの脱却／夢と可能性／テーマと乖離する現実

## 6・『表現未満、プロジェクト』のコンテンツの整理・ウェブ配信整備の構築

福祉の現場は、人と人が日々関わる中で、出来事や問いや葛藤が生まれてくる場所。それを個人の中だけに留めず、共有すること、深めること、多くの視点から捉えなおす機会を設けるのが、前各項で述べられてきた、文化事業の数々である。しかし、文化事業での取り組みを公に発信しようとするほど、我々が「表現未満、」と呼ぶところの根っこ、つまり日々のこと、個人の思考や葛藤がこぼれ落ちてしまいがちになる。ここで生活しているひとたちが、何を考えて、なぜそうしているのか。そんな“日常”を伝えるために、広報誌や動画を制作したり、ウェブサイトやSNSで発信したりと、改めてコンテンツ整理・稼働に取り組むことになった次第である。

## ■広報およびWEB 整備

### 2023 年

- 5月1日 広報チーム 発足
- 5月24日 のヴぁてれび新コンテンツ「のヴぁてれび と ○○○」第一弾 配信
- 5月27日 ホームページ トップ画面リニューアル 発表  
全体リニューアルに向けて動き出す
- 5月31日 たけし文化センターMail NEWS 5月号 配信
- 6月26日 たけし文化センターMail NEWS 6月号 配信
- 7月18日 たけし文化センターMail NEWS 7月号 配信
- 8月5日 【号外】たけし文化センターMail NEWS 凸凹祭り情報 配信
- 9月1日 のヴぁてれび新コンテンツ「アルス・ノヴァ CLIP！」配信開始（以下週1ペースで配信）
- 9月6日 たけし文化センターMail NEWS 8月号 配信
- 9月28日 たけし文化センターMail NEWS 9月号 配信
- 10月1日 月刊誌 10月号 発行
- 10月18日 ホームページ デザイン案 決定 開発開始
- 10月25日 たけし文化センターMail NEWS 10月号 配信
- 11月1日 月刊誌 11月号 発行
- 12月1日 たけし文化センターMail NEWS 11月号 配信 月刊誌 12月号 発行
- 12月22日 【号外】たけし文化センターMail NEWS 新春イベント情報 配信
- 12月26日 たけし文化センターMail NEWS 12月号 配信

### 2024 年

- 1月4日 月刊誌 1月号 発行
- 1月30日 たけし文化センターMail NEWS 1月号 配信
- 2月1日 月刊誌 2月号 発行
- 3月 ホームページ リニューアル完成

■YouTube チャンネル「のヴぁてれび」(5月～3月 計36本配信)



- ・週刊あるす・のヴァ（動画／12本）  
撮影・編集 のヴァてれびクルーによる総本数 200 本を  
越えるシリーズ番組。
- ・アルス・ノヴァ CLIP！（12本）  
アルス・ノヴァ の全スタッフがスタッフ間でのみ共有  
していた有象無象の動画たち。そんな秘蔵動画を放映。
- ・のヴァゲーム暮らし（仮）（1本）
- ・のヴァてれびと何かを掛け合わせて化学反応を楽しむ『のヴァてれびと〇〇〇』シリーズ  
を始動
- ・ヘルパーのかばんの中身 紹介しちゃうよ！（1本）  
動画配信サイトでよく見かける荷物のパッキング動画をスタッフが念願のパロディ化  
アルス・ノヴァ ULTRA で宿泊勤務するヘルパーさんの荷物を大公開！
- ・アルスデイズ（4本）  
アルス・ノヴァの日常に流れる、とある1日のなんとも言いようのない時間をちら見せ  
る人気コンテンツ『アルス・ノヴァ 60秒劇場』のリニューアル
- ・お祭りごっこ～みんなでつくる凸凹まつり動画（9分46秒）
- ・かしだしたけし@京都（3本）
- ・玄関ライブ（12本・毎月1回）
- ・クラブ・アルス（3本）

#### ■WEB 配信

凸凹まつり映像制作（2023年11月～）

#### ■『表現未満、雑録』の制作

事業をまとめた『表現未満、雑録 2023』を制作し、配布した。

A5判（一部カラー）299ページ 制作部数 1200冊 全国発送 700部

### ③浜松ちまた会議

レッツは2021年、福祉や企業、まちづくりの担い手がつながり、共に対話し、商業だけではない新しいまちのあり方を模索するプラットフォーム「浜松ちまた会議」を立ち上げた。「福祉」を軸にしたネイバーフッドシティ構想を掲げ、誰もが安心して暮らし、生活できるまちなかのあり方を勉強会や派生事業を通じて模索している。

#### 1・移動文化会館（出張ちまた公民館）（26回）

「ちまた公民館」は場所ではなく、活動である」というコンセプトのもと、特定の場所に縛られず、協働センター、看護学校、浜松リノベーションフェス、渋谷ヒカリエといった場所で「出張表現未満、エンター（出張ちまた公民館）」事業を展開した。

## 2023年

- 10月6日 クリエート浜松 20名
- 10月11日 クリエート浜松 25名
- 10月14日 お祭りごっこ！～みんなで作る凸凹まつり～ 2000名
- 10月18日 クリエート浜松 20名
- 10月23日 クリエート浜松 20名
- 10月27日 渋谷ヒカリエ（超福祉の学校@SHIBUYA） 50名
- 10月30日 クリエート浜松 20名
- 11月1日 クリエート浜松 20名
- 11月8日 クリエート浜松 20名
- 11月14日 クリエート浜松 20名
- 11月18日 浜松市立看護学校 70名
- 11月20日 クリエート浜松 15名
- 11月27日 クリエート浜松 15名
- 12月3日 浜松リノベーションフェスティバル 30名
- 12月6日 クリエート浜松（世界のダンス体操） 50名
- 12月12日 クリエート浜松（世界のダンス体操） 60名
- 12月20日 クリエート浜松 20名

## 2024年

- 1月5日 クリエート浜松 20名
- 1月16日 クリエート浜松 20名
- 1月23日 クリエート浜松 20名
- 1月30日 クリエート浜松 20名
- 2月5日 クリエート浜松（共生社会コンファレンス「ともにいるだけで学びになる～これからの協働センターはどうあるべきか、その可能性を考える」） 300名
- 2月6日 クリエート浜松 20名
- 2月13日 クリエート浜松 30名
- 2月19日 クリエート浜松 15名
- 2月27日 クリエート浜松 20名

## 2・新たなコミュニティ形成に向けた祭りの立ち上げ

### ■お祭りごっこ！！～みんなで作る凸凹まつり～

今年度は、浜松ちまた会議とレッツが協働し、「楽しいことを通じてつながる新しい人間関係」をテーマに、「お祭りごっこ！！～みんなで作る凸凹まつり～」を10月13日・14日に開催した。このイベントの肝は、浜松ちまた会議と連携し、多くの人を巻き込み、お祭りをつくるプロセスの中で出会いやつながりを生み出したことだ。3ヶ月にわたり制作した巨大張子（通称：凸デコ）作りには134名の方が参加し、当日の来館者数も1500名に登

った。「お祭りごっこ」を通じて、どのような出会いと葛藤と人間関係が生まれたのか、ここでその活動を振り返る。

主催：浜松ちまた会議

共催：認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ、株式会社 HACK

支援：アーツカウンシルずおか

- 7月17日 凸ってどう作る！？試作①
- 8月12日 凸つくり第1回「凸制作！キックオフ！」
- 8月18日、19日 凸つくり第2回「ベテランに学ぶ凸（デコ）作り基礎レクチャー」  
講師：現役浜松北高校生
- 8月19日 浜松盆部さんに踊りを教わろう①（講師：浜松盆部）
- 8月25日、26日 凸つくり第3回「こんな凸デコが作りたい！」
- 9月1日、2日 凸つくり第4回「ヘルマウス、あらわる！」
- 9月2日 NU-TRIA さんのスケートボード体験会（講師：NU-TRIA skatepark）
- 9月8日、9日 凸つくり第5回「マスタープラン！」
- 9月15日、16日 凸つくり第6回「家内安全ヲ～制作開始！」
- 9月22日 凸つくり第7回「チラシ配りの金曜日！」
- 9月29日、30日 凸つくり第8回「～晩夏の夜の凸～」
- 10月6日、7日 凸つくり第9回「いよいよ大詰め！」
- 10月7日 浜松盆部さんに踊りを教わろう②（講師：浜松盆部）
- 10月13日 お祭りごっこ！！みんなでつくる凸凹まつり 前夜祭
- 10月14日 お祭りごっこ！！みんなでつくる凸凹まつり

#### ④文化センター拠点整備事業

入野の拠点「アルス・ノヴァ入野」を街なかに移転する計画で、年間を通して物件調査を行った。良い物件があった場合でも、消防や福祉の制度上使用できないケースがほとんどで、大変難航した。最終的に浜松市中央区田町の旧たけし文化センターINFOLOUNGEへの移転を決めることができた。

#### (10) その他、本会の目的を達成するのに必要な事業

##### ①地域福祉に資するシェアハウス・ゲストハウス事業

たけし文化センター3階はシェアハウス4室、ゲストハウス1室（2名宿泊可）があり、シェアハウスでは前年度に引き続き、知的障害のある方3名がヘルパーの支援を利用しながら自立生活を送っている。完全に親元を離れるのではなく、週に1～2日は実

家へ戻るリズムで安定している。夕方からヘルパーが2人支援に入る方もいるので、夜はキッチンが混みあってにぎやかになる。

こうした生活が定着しているいっぽうで、日中サービスである生活介護の利用者も年齢が30代が多くなり、本人の介護をする同居家族の高齢化など様々な事情から実家での生活が困難になってきた方が増えてきた。障害支援区分や個々の状況により、ヘルパーサービスである重度訪問介護の支給が受けられなかったり、支給量が少ない場合もあり、宿泊はせずとも、せめて夕方から夜にかけて、食事や入浴、のんびりするだけでも助かる、ということから、ゲストハウスの日帰り料金を設定して対応した結果、空室を利用して週3回程度の日帰り利用をする方が増えた。

ゲストハウスは毎月の観光ツアーで利用されることが多い。ツアー定員が10名なのに対し、ゲストハウスは同性2名までが定員であるため、早く申し込んだ方から埋まり、お断りすることも多い。ただ、ゲストハウスとして公式に宿泊施設として公開しているわけではないため、一般宿泊者は多くない。そのぶん、空いている日には利用が増えた日帰り利用者を受け入れている。

その結果、常に3～5名の障害のある方とそれぞれのヘルパー、宿泊者が3階に集まることになり、キッチンの利用や入浴のタイミング、空間の利用、洗濯物を干す場所などあらゆる場面で手狭になってきた。

さらに、来年度以降は重度訪問介護の支給を受ける方が増える予想で、シェアハウス・ゲストハウス利用の希望も確実に増えるであろうことから、令和5年を通して新たな場所を探してきたが、なかなか良い物件に出会えていなかった。引き続き、手立てを講じていく。



シェアハウス：家賃＋光熱水費 36,000円、4室のうち

ゲストハウス：1泊3,000円、日帰り200円

令和5年度 宿泊利用 月平均8泊・のべ97泊／日帰り 月平均18回 のべ216回  
利用

## ②地域福祉に資する不動産事業

今年度事業実施なし

## ③共生社会を目指す体験型交流事業

### ●学習プログラム

小学生から高校生までの学習プログラムを引き続き推進している。たけし文化センターに小学生が校外学習にやってくる「GOGO!たけぶん探検隊!」については、近隣の小学校をターゲットに営業訪問したものの、今年度開催はできなかった。一方で各学校をアルス・ノヴァのメンバーが訪問する「みにみにアルス・ノヴァ」は、佐鳴台小学校での月1回昼休みの訪問や広沢小と泉小への長期休み期間の放課後児童会訪問が継続出来ている。訪問のたびに「いつも来るノヴァさん」として定着しているのを感じ、継続することの力を感じている。

高校生向けとしては埼玉県から自由の森学園の体験学習の受け入れを2021年に引き続き行い、小人数で数日滞在する形式で2度開催した。

また勉強熱心な先生方の参加するフォーラム「未来の先生フォーラム」へのポスター及びプレゼンテーションでの参加や、先生や教育関係の方々が交流する教育メディアコミュニティ「先生の学校」が配信するYouTube番組「となりの学校見学」で取り上げていただいたほか、前年度講演で一緒させていただいた京都 co-jin の連続講座に登壇させていただくなど、実践する中で考えたことを拡げていく活動も行った。

### 1・みにみにアルス・ノヴァ

2023年

- 6月6日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小学校
- 7月4日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小
- 8月7日(月) 13:30~14:30 @ひろさわ第3児童会
- 8月21日(月) 13:30~14:30 @たかだい児童会
- 9月5日(火) 12:40~13:10 (中止) @佐鳴台小
- 10月3日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小
- 11月7日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小
- 12月5日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小

2024年

- 2月6日(火) 12:40~13:10 (中止) @佐鳴台小
- 3月5日(火) 12:40~13:10 @佐鳴台小

### 2・高校生向け体験学習受け入れ

2023年 8月7日～9日 自由の森学園2名体験学習 (3日間)

2023年 8月21～22日 自由の森学園1名体験学習 (2日間)

### 3・ポスターセッション及び講演など

先生の学校イベント

「ともにいるだけで学びになる」とは？

インクルーシブ教育について、アート×福祉の視点から深めてみませんか？

日時：6月27日（火）20:30～22:00 @オンライン

HOPEに記事掲載とオンライン記事掲載

「ともにいるだけで学びになる。アートの手法で、障がいの捉え方の転換に挑む「認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ」の取り組みとは？」

<https://www.sensei-no-gakkou.com/article/no0083/>

2024年1月15日

となりの学校見学 YouTube 公開 <https://www.youtube.com/watch?v=fz0l9UXkBII>

2023年8月20日（日）14:20 - 15:20

未来の先生フォーラム 2023 リアルプログラム@桜美林大学でのプレゼン（夏目、竹内）

「ちがひ」が学校をやわらかくする～知的障害者施設のアプローチを学ぼう～

2024年1月4日（木）14:30～15:00

文科省 | インタビュー | みにみにアルス・ノヴァ（夏目、内田）

2024年2月22日（木）18:30-20:30 オンライン (zoom)

co-jin 講座 vol.3 「なぜごちゃまぜの状況をつくっているのか」（竹内）

### ●タイムトラベル 100 時間ツアー

今年度で7年目を迎えた「タイムトラベル 100 時間ツアー」。コロナ禍も開け、毎月たくさんのお客さんがたけし文化センターを訪れました。レッツ内での観光担当（ツアーコン）は月交代制。月ごとに異なるスタッフが新たに観光プランを作り直し、それぞれの思う「クリエイティブサポートレッツ」を紹介した。

参加者は県外者が多く、HPSNS の効果が大きいようである。また、コロナ禍を抜け、『ただ、そこにいる人たち』（2019、現代書館）の読者の来訪が増えたことが印象的だった。

タイムトラベル 100 時間ツアー／実施 13 回／参加者総数 63 名

4月21日～22日 参加者 3名（事前申込み 3名）（東京 3）

5月19日～20日 参加者 3名（事前申込み 4名）（秋田、静岡、滋賀）

6月16日～17日 参加者 3名（事前申込み 10名）（愛知、福岡、東京）

7月21日～22日 参加者 5名（事前申込み 10名）（東京 3、大阪、茨城）

8月18日～19日 参加者 6名（事前申込み 6名）（東京 3（留学生 2）、愛知、愛媛、京都）

9月15日～16日 参加者 5名（事前申込み 7名）（東京 5）

10月20日から21日 参加者7名（事前申込み7名）（東京3、大阪、福井、千葉、静岡）  
11月17日～18日 参加者5名（事前申込み5名）（東京3、静岡、茨城（留学生））  
12月7日～8日 参加者9名（事前申込み9名）（神奈川8、静岡）  
12月15日～16日 参加者5名（事前申込み5名）（福島県檜葉町4名、京都）  
1月19日～20日 参加者4名（事前申込み5名）（東京、栃木、岡山、静岡）  
2月16日～17日 参加者3名（事前申込み3名）（東京2、大阪）  
3月21日～22日 参加者5名（事前申込み5名）（東京5）

## ■2023 年度出演・登壇

2023 年

- 5/29（月）～6/26（月） にじメディア第3弾作品「働くことは生きること」オンライン無料配信#1 に久保田翠が登壇
- 6/4（日） 上智大学公認サークル「wel-bee」自主イベントにて久保田翠登壇
- 6/6（火） 聖隷クリストファー大学 看護学部「地域包括ケア看護論」で久保田翠が講義
- 6/12（月） 夢授業@第一学院高等学校浜松キャンパスに佐々木雄一・櫻井喜維智が登壇
- 6/17（土） 秋田市文化創造館 未来の生活を考えるスクール第12回「障害とまちづくりと表現」に久保田翠とササキユイチが登壇
- 6/18（日） PARA「別の人権を想像するアニュアル 2023」に久保田翠が登壇
- 6/27（火） 先生の学校オンラインイベント「インクルーシブ教育を考える ～ともにいるだけで学びになる～」に久保田翠が登壇
- 8/10（木） アート専門YouTube番組「MEET YOUR ART」
- 8/12（土） 奈良県立図書館「BOOK, TRAIL Vol.3 本を通じてきく、あなたの旅の話」に久保田翠が登壇
- 8/20（日） 未来の先生フォーラム@桜美林大学に夏目はるな・竹内聡が登壇
- 9/3（日） 第23回日本音楽療法学会学術大会
- 9/7（木） 聖隷クリストファー中学校3年生出張授業で久保田翠が講義
- 9/19～10/19 オンデマンド配信 医療福祉建築フォーラム2023に久保田翠が登壇
- 10/27（金） 超福祉の学校@渋谷ヒカリエに久保田翠が登壇
- 11/7（火） アーツカウンシル主催セミナー「コミュニティを創造する」に久保田瑛が登壇
- 11/26（日） さいたまアーツセンタープロジェクト2023 カルチャーダイブ・トークセッション vol.5「福祉施設とコミュニティ」に久保田翠が登壇
- 12/2（土） 市民セクター全国会議@聖心女子大学に久保田翠が登壇
- 12/13（水） 愛知大学「メディア芸術批評実習」にて夏目はるなが講義
- 12/14（木） 立教大学「コミュニティデザイン学演習22 文化政策論2」にて久保田翠が講義

2024 年

- 1/25（木） 令和5年度図書館地区別研修（近畿地区）@奈良県立図書館にて久保田翠が講演
- 1/14（日） 『公共の場をつくる～地域に場を開く3つの取り組み～』SPTラボラトリーレクチャー@世田谷パブリックシアターに久保田翠が登壇
- 2/7（水） 浜松ライオンズクラブ例会にて久保田翠が講演
- 2/22（木） co-jin 講座 vol.3「なぜごちゃまぜの状況をつくっているのか」に竹内聡が登壇
- 3/4（月） 「映像から考える ableism 再考研究プロジェクト」対面 workshop II@京都大学に久保田翠が登壇

## ■メディア掲載

### 2023年

- ・5月10日中日新聞「命の出会いは創造～身障者も性的少数者も学生も～」
- ・『しずおかSDGs読本』 p.6 6月静岡新聞社発行
- ・『HOPE』 p.45「ともにいるだけで学びになる」7月26日(株)スマイルボタン発行
- ・10月7日静岡新聞「中区で13,14日『凸凹まつり』張り子展示やスケボー体験」
- ・10月7日中日新聞「新たなコミュニティを 中区13,14日に体験型のお祭り」
- ・『手をつなぐ』No.812 2023年10月号 p.24『「やってみようぜ」という合意』
- ・10月11日朝日新聞「お祭り 誰でも自由に楽しんで 13,14日浜松で『凸凹まつり』」
- ・10月14日中日新聞「盆踊り、音楽で盛り上げ きょうまで中区で凸凹まつり」
- ・11月21日讀賣新聞「安心の設計『知的障害者施設 中心街に』」
- ・11月21日静岡新聞「浜松市政への注文『皆が集える場づくりを NPO職員・水越雅人さん』」
- ・『浜松百撰』Vol.793 2023年12月号 p.31「ルームツアーによろこそ『ちまた公民館』」
- ・12月9日中日新聞「一緒に踊って異文化交流！ 中区ペルー出身介護福祉士ダンス紹介」

### 2024年

- ・2月3日中日新聞「協働センターの『在り方』講演会 5日、クリエート浜松で」
- ・2月7日中日新聞「みんなの居場所 公共施設考える 講演会に150人参加」
- ・1月18日 先生の学校 YouTube 番組「となりの学校見学#13」公開
- ・日本音楽療法学会誌 Vol.23 / No.2 2023 久保田翠 寄稿



居場所、交流の拠点



週末に外出、運動の機会を「プロの選手たちも協力」

今年夏はこれまで、延べ約10人が参加し、障害者や高齢者が一緒に楽しむことができた。...

知的障害者施設中心街に
「知的障害者施設中心街」は、知的障害者の生活の場として、地域社会とつながる重要な役割を果たしている。



アートの手法で、障がいの捉え方の転換に挑む
「認定NPO法人クリエイティブサポート」の取り組みとは？

久保田 雅夫
「アートの手法で、障がいの捉え方の転換に挑む」というテーマで、障害者の生活や社会参加について語った。



「見ると変わる」大行動も
その人にとっては大切なもの
「認定NPO法人クリエイティブサポート」は、障害者の生活や社会参加について語った。

「見ると変わる」大行動も
その人にとっては大切なもの
「認定NPO法人クリエイティブサポート」は、障害者の生活や社会参加について語った。

「見ると変わる」大行動も
その人にとっては大切なもの
「認定NPO法人クリエイティブサポート」は、障害者の生活や社会参加について語った。

2024年(令和6年)2月7日(水曜日) [10]

中 日 系 刊 月 報

みんなの居場所
公共施設考える
講演会に個人参加
障害者のアート活動を支えるNPO法人「クリエイティブサポート」(浜松市中央区浜町)が5日、中央区早馬町のクリエイティブサポートで、市協働センターの協力を得て、講演会を開いた。

若者が集まる「障害者協働センター」
活動を紹介する講演会「浜松市中
区早馬町のクリエイティブサポート」
市や市社会福祉協議会の職員、レゾラのメンバーが意見を交わすセッションもあった。



お祭り 誰でも自由に楽しんで
13、14日 浜松で「凸凹まつり」

福祉の視点で街づくりを考える企業や団体、個人でつくる「浜松市またたき会議」が13、14の両日、浜松市中部部の遠州鉄道の高架下「新川モール」でイベントを開く。障がい者がつくれた張り紙の展示やスケートボード体験、盆踊りなど、「誰もが自由にたのびながら楽しめる空間」をつくるのが目標だ。

「きょういく」を探究し、創造する

# 先生の学校



SHARE

## 盆踊り、音楽で盛り上げ

きょうまで 中区で凸凹まつり

盆踊りやDJライブなどのイベント「お祭り」のイベント「お祭り」!! みんなで「お祭り」を回す「お祭り」の前後祭が3日、浜松市中区の新川モールで開催された。14日にもさまざまなイベントを企画して

市内の企業や福祉団体などで行われる「浜松ちまたな

岸野雄一さんが流す曲に合わせて踊る参加者ら。浜松市中区の新川モール



ボにアレンジした曲が流れ、参加者らは思い思いに

踊って楽しんでいた。全長3分の巨大張り子も展示した。14日は、DJライブや「浜松盆部」による盆踊り、スケートボードの体験やショー、飲食や輪投げの出店などがある。入場無料で午前11時～午後6時。実行委の竹内聡さん(左)は「楽しいことを通じて、人と人とのつながりができるきっかけになってほしい」と話した。(柳原大介)

## 一緒に踊って異文化交流!

中区 パルー出身介護福祉士ダンス紹介



ホセ・カルロス・カセダさん(手前)と「マリネラ」を踊る参加者＝浜松市中区で

国や言語などの壁を越えてダンスやエクササイズで異文化交流をする「世界のダンス体操」が6日、浜松市中区のクリエイティブサポートレッツで開かれた。パルー出身の介護福祉士ホセ・カルロス・カセダさん(32)＝湖西市＝が講師を務め、同国の国民的な伝統舞踊「マリネラ」やサルサの基本的なステップを伝授した。

会場は万国旗で彩られ、視覚や身体に障がいのある人や市民30人余りが参加した。カルロスさんは「パルーにはみんなで踊る文化もある。おなじみのダンスと伝統的な踊りに挑戦して体を動かしましょう」と声を掛け、ステップを学ぶ上での数え方や動き方を表現するスペイン語を指南した。参加者は、テンポの速いサルサダンスを学んだ後、伝統的マリネラに挑戦。姿勢を正し視線を斜め上に向け、足を交差させながら白い布を指に挟み、手を8の字に動かす基本ステップを学び、音楽に合わせて全員が体を動かした。



